

浄土宗のお仏壇の祀り方と教え④



お仏壇は極楽浄土の姿を現しています。ご家庭内において阿弥陀仏やご先祖様が見守り下さるお姿です。どうぞ1日に1度は手を合わせ心を養う習慣を身につけましょう。

ひ た て 灯 立

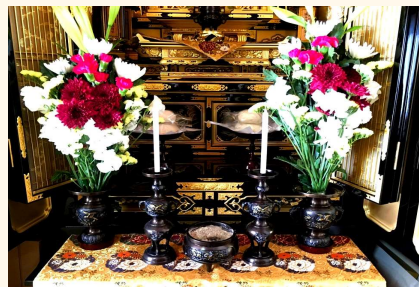
これは皆様ご存知のローソク立て、灯明立てになります。また灯明とも言います。

◎灯明の意味は？

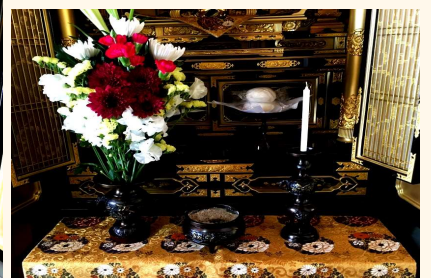
仏教の仏または三宝に献ずる五種の供養物（香・花・焼香・飲食・灯明）の1つでありお供えに欠かせない重要な仏具です。灯明をお供えする理由は仏典に仏・菩薩に灯明を奉げることにより大きな功德を受けると説かれています。また「浄土宗勤行式」の香偈には、願我身浄如香炉 願我心如智慧火 念念焚烧戒定香 供養十方三世仏と書かれているとおり仏の智慧を火にたとえて、煩惱を焚烧（焼き尽くす）するものと説かれています。また密教では外四供養（げのしくよう）や六種供養の一つとされて智慧に比され、灯明を献ずることにより、仏の智慧を讃え、心の迷闇が除かれるとされています。また、仏教の大切な教えである三宝（仏・法・僧）の中の仏の明るくという意味にも通じます。

◎灯明の供え方は？

灯明は左右1対で飾るのが丁寧な飾り方になります。ただし、仏壇の大きさによっては1本しか飾れないところもあるのでそれでも良いとされています。左右1対で飾る意味は仏教の開祖お釈迦様の教えの「自灯明」「法灯明（自分自身を拠りどころとし、教えを拠りどころとせよ）」と言い、その灯は仏さまの智慧と慈悲を表すとされています。また、供え方は先程触れたように左右1対が丁寧な飾り方とされ、花立と香炉と合わせて五具足（ごぐそく）で飾る飾り方と灯明1つ、花立1つ



五具足（ごぐそく）



三具足（さんぐそく）

と香炉の三具足（さんぐそく）で飾る飾り方があります。飾る場所はお仏壇の1番手前に横1列で飾りますが、ご自宅のお仏壇によって飾れるスペースが異なりますのでその通りで無くても構いません。また、灯明で使うローソクは法事の時には長いものが望ましいですが、日ごろお仏壇でお参りされるときには消し忘れや火災予防のため短いローソク（豆ローソク）がおすすめです。



はなたち 花立

◎花立とはどんな仏具？

花立とは、お仏壇などに花を供えるために花瓶の役割をする仏具で、仏または三宝に献ずる五種の供養物（香・花・焼香・飲食・灯明）の1つでありお供えに欠かせない重要な仏具です。花立を選ぶ際には仏壇の大きさに合わせたサイズ・素材・形状・デザイン・色などを考慮することが大切です。素材には真鍮・陶器・アルミ・木製・ガラスなど様々な種類があり、それぞれ特徴が異なります。サイズは、三具足または五具足の配置によって必要な数が異なり、仏壇の大きさに合わせる必要があります。またお仏壇にお花をお供える理由は切り花を供えることから切った花は時間が経てば枯れてしまうことから命に限りがあるということ、そして、1つの花立にたくさんの種類の花を入れて供えることから仏教の大切な教えである三宝（仏・法・僧）の中の僧、仲良くにも通じます。

◎花の供え方ってあるの？

そもそも、お仏壇に花をお供えするのはなぜでしょうか。

「誰のための花なのか？」ということ意識してみると、向きも置く理由も納得できるはずです。一般的には「仏様や亡くなったご先祖様のため」と思われがちな供花、ですが、実は、あくまでも私たちのためのものなんです。仏様へお花をお供えしたその功德やご慈悲をいただくためにこちら側に向けて置くものなんだそうですよ。これを回向と申します。ですのお供えすると時にはまずはお仏壇へお花のきれいな面を向け、供えるときにはくるっと花立をこちらに回してお供えするとされています。

◎仏壇にお供えする花に決まりはあるの？

お供えする花に大きな決まりは特にはありません。庭に咲いている季節の花や亡くなられたが故人の好んでいた花などをお仏壇のお供えすることも手を合わせて想いを手向ける良いきっかけになるでしょう。ですが、お供えするのに適さない花はあります。それは花に毒性があるもの、それから根の付いたもの、トゲのあるお花はお供えするのに適しませんので気を付けたいものです。そしてお檀家様からよく聞かれることは「造花を供えてはいけないの？」ということです。夏場の暑い季節はせっかくきれいな花を供えても数日で花が持たずに萎れてしまいます。そんな場合や長期の外出などの時は仕方ないのかなと思いますが、いつもお仏壇に造花が供えられている。これはあまりお勧めしません。出来たら毎月のご命日にはきれいな生花をお供えしたいものですね。

